

緑にありがとう

三留 純子 福島県会津若松市 五十一歳

風に揺れる花たち。

十一年前はこの庭にはなかった。

会津が、福島が、東北が、日本が、揺れた日。

その当時、公務優先と称して家を空けることが多かった私は、当時小学生の娘たちに何度も聞かれた。

「何時に帰ってくるの。」

「余震が続き娘二人だけで過ごす時間が多かったあの頃、家を出るたびに申し訳ないと思っていた。」

五月の日曜日に夫と娘からカーネーションをもらった。

「いつもありがとう。」

娘を置いて仕事に行くことがまるで悪いことになっていた。

ありがとう、なんだ。

無我夢中で仕事に向かっていた私を、誰かが応援してくれている。

ピンクのカーネーションは、鉢植えから庭の隅に植えてみた。

まさか、咲くなんてことはないよな。物は試し。緑の葉が支える花。緑の葉がないと花は咲かない。花を咲かせるために緑はある。与えられた環境で、自分のできることをできるだけ。そう背中を押されている気がした。

昨年、私は足を痛め、最近ようやく歩くようになったが、一緒に歩く人に気を使わせてしまうほど遅い。ゆっくりでなければ見えなかったもの。追い越されることや追いつけない苛立ち。

人の気持ちが変わるときもある。それが私にとって大きな収穫だ。

十年前、殺風景だった庭は花盛りになっている。物は試しに植えた花が冬を越した。会津の大雪にも耐えた。私を応援するかのように風に揺れる花たち。

さあ、今日も仕事。いってきます。